

相対評価は消えない！

いよいよ学校も新年度を迎えました。中学への絶対評価の導入は単なる評価法の変更にとどまらず、多方面に影響を及ぼすものと思います。

最近メディアでもよく取り上げられていますが、やはり「全員が5となることもありうる」ようです。また、愛知県の高校入試は、今年度は従来通りの相対評価、来年度からは絶対評価の内申を使うようですが、それを機におそらくは入試制度を変えてくることになるでしょう。毎年県教育委員会が決める計画進学率は9割強で、そのうち公立と私立の比はほぼ2:1となるように募集定員を決めています。おそらくこの比率は今後も変わらないものと考えられます。ということは、絶対評価で内申点がよくなったとしてもやはり全員が公立普通科に進めるわけではなく、むしろ従来の内申点と当日点をほぼ1:1にとる入試方法では、ほとんどオール5の成績でなければ高蔵寺や春日井東を受験すらできない現象すら起こりうると思います。

では、高校入試の進路指導の基準はどうなるのでしょうか。学校側には業者模試のデータはありませんから、唯一信用できるものは「学年順位」しかないわけです。つまり「生徒のレベルは変わっていないと仮定して、例年何番くらいの生徒がその高校に受かったか」という実績で受験指導することになるはずですが、しかし、この学年順位というものは完全に「相対的な評価」であり、内申点とのギャップに学校の進路指導もしばらくは混乱をきたすことでしょう。「内申点40だから高蔵寺は難しい」と言われて、本人や保護者の方がはたしてすぐに納得できるものでしょうか。

内申点は形骸化するかもしれません。いっそのこと内申点は受験に影響しない実力主義の入試になった方が、塾としては「生徒を煽りやすく」なるのかもしれませんが、私としてはあまりいい気はしません。

県教育委員会の方々、どんなに考えてもすべての人に喜ばれるような非の打ち所のない入試制度など無いことは承知しています。でも1年の猶予期間の中に、生徒にとっても、学校にとってもよりマシな入試制度をぜひ打ち出していきたいと思います。

'01年度塾生通知表評定平均

9科目別平均	英語	数学	国語	社会	理科	5科目計	音楽	美術	保体	技術	9科目計
新中2	4.4	4.5	3.8	3.9	3.9	20.4	3.8	3.5	4.3	3.6	35.6
新中3	4.7	4.6	4.6	4.6	4.5	23.0	4.0	4.5	3.9	4.3	39.7
卒塾生	4.5	4.8	4.3	4.5	4.5	22.7	3.9	3.8	3.9	3.9	38.1

5科目別内申評定割合 (%)

	英語	数学	国語	社会	理科
5	61	64	44	44	42
4	31	33	33	44	47
3	8	3	19	8	11
2	0	0	3	3	0
1	0	0	0	0	0

9科目合計内申点割合 (%)

	%	参考'00年度	主な受験校
40~45	41	46	旭丘 菊里
36~39	29	14	春日井
32~35	21	26	高蔵寺
27~31	6	11	春日井東
9~26	3	3	私立 他